

ぼくは夏休みに友達と会えなくてたいくつだった。今年の夏休みは、コロナがおさまって普通に考えればうれしいはずなのに、なぜか、すごく長く感じた。

早く学校が始まってほしいと本気で思った。

一学期はずっと「早く夏休みに入りたい！」と、とても楽しみにしていた。しかし、実際は時間が余って、何をしたいのか分からなかった。そんなときに友達のありがたさがよく分かった。ぼくには双子の姉がいるから、ほかの友達よりたいくつすることも少なかったかもしれない。お父さん、お母さんと一緒にいることも多かった。家族の温かさを感じることができた。はずかしいから、心の中でありがとう！

夏休みにはニュースですごく悲しい事件や事故があったことを知った。台風で大きな被害があった。川がはらんして、多くの人が苦労していた。川でおぼれてなくなった小学生もいた。また、毎日暑くて暑くて体がとけるんじゃないかと思った。お年寄りが病院に運ばれたり、ぼくよりも年下の女の子が体育の後、熱中症で亡くなったりした。ぼくたちは、今年四年ぶりに普通の夏休みを送ることができてよかった。でもぼくたちは当たり前前に休みを楽しんでいるが、その一方で、悲しい思い、つらい思いをしている人もたくさんいるのも現実だった。当たり前の毎日に感謝したい。

ぼくたちが困っている人に何ができるか考えてもなかなかわからない。ボランティアに行くことも募金をすることも難しい。やっぱり、自分の周りの友達や家族、普段接することの多い人たちに優しさ、思いやりの気持ちを持って関わることが大切だと思う。ぼくは学校で児童会に入っている。恵我南小学校児童会では、「絶対にいじめを許さない！」を合言葉に、いじめに対して強い気持ちで取り組んでいる。何気ない一言で、友達がどれだけ簡単に傷ついてしまうか考えて行動しないといけないと思う。かげで悪口を言い合ってつながる関係は情けないと思う。ぼくはこれからみんなの見本になれるような行動をしていこうと思う。一人の力は小さいけれど、これが学校全体に広がれば、すごく大きな力になると思う。つらい思いをしている友達がいれば、少しでもみんなが寄り添ってあげられるようになればいいと思う。もし誰かがいじめられていたり、仲間外れにされていたら、見て見ぬふりをするんじゃなくて、勇気を出して注意できる強い人間になりたい。簡単ではないけれど、友達のために頑張ろうと思う。

ぼくは何不自由なく毎日を過ごしている。それは、家族や友達、先生、そしてぼくを支えてくれる全ての人のおかげだということを忘れないで、感謝の気持ちを持ち続けたい。世の中には、困っている人やつらい思いをしている人がたくさんいる。これからは、笑顔でそんな人に思いやりの手を差しのべられる大人になれるようにがんばりたいと思う。少しでも人のために、そして、少しでも笑顔があふれる世の中になってくれればうれしい。いろいろ悲しい事件が起こっているけれど、ぼくにはそんな事件を解決することはできない。ぼくのできること、「笑顔で思いやりの気持ちを持って人に接すること」こんなことから始めていきたい。世の中に笑顔がふえれば、楽しい社会になるのではないかと思う。そんな社会になれば、ぼくはすごくうれしい。